

(24) 発達研究センター報告、その24 (2012年1月)

“好い事作り心理療法”によって泣いてる子を叩きに行く
という困った行動を無くすることができた3歳女児

楡の会こどもクリニック
石川 丹

要旨

「泣いてる子を叩く」を主訴とし、外向性と知性に問題ないが、情緒は不安定で、協調性と勤勉性は両極端という性格特徴を有した3歳児に、“好い事作り心理療法”¹⁾を施して良好な予後を得た。その要因は通常の4歳児が獲得する、二重性の理解と他者視点を児が獲得し、自分を外側から見て自分を制御する知恵、即ちソクラテスの言うところの“汝自身を知れ”の達成にあった。

初めに

子育てに困難を抱えている家庭が最も困っている事態は、子どもが聞き分け無いと映る場合で、特に子どもの暴力、攻撃行動^{2, 3)}である。その要因は子どもが、我が強い、にあるが、この特徴を自己主張が出来ていて良い事と認識できない場合には問題が深刻化する。子どもを“宥めたり、賺したり、煽てたり”する事が子育ての基本中の基本である事理解が大切である。

児童

初診時3歳4ヵ月女児

主訴：泣いている子を叩きに行く。ガッチャーンという音を聴くと興奮する。

現症：泣いて愚図っている子に会うと「そんな事しちゃダメ、泣いたらダメなの、ママが怒るの」と言いながら叩く、泣き止むまで叩く。妹が泣くと興奮して物を妹に投げ付け押し倒して叩く。お友達が玩具箱を倒して大きな音がした途端、大泣きしながら「私も壊してやる」と言いながら行こうとしたので、母が止めたら大暴れしたため羽交い絞めにして「玩具は元に戻るから大丈夫だよ、直しに行きたいのかい」と言ったら、「壊しに行く」と答えた。ピアノの低い音を嫌がって泣く。周りに誰も居ない滑り台に一人で登って「ダメー」と叫んだ事がある。これがしたいあれがしたいと欲求は強いが、母が説得すると待てる事もある。お話は良くするがあっちこっちに話が飛ぶ。道路に飛び出す、人混みもどンドン行っちゃう。しつこさと気紛れの両方がある。自分がティラノザウルスになって母や妹に「～に成って」と役付けして成り切り遊びに熱中する。妹に本を読み聞かせる事もある。吃音と瞬きチックが2歳4ヵ月から半年間あったが、最近また出ている。強く叱った後から「ママ、ハッピーかい？アングリーかい？ママ、ハッピーになって欲しいの」が口癖になった。神経学的に異常は無い。

保健センターからの紹介状：プレ幼稚園では集団行動は可能ですが、他児が泣くと叩きに行きます。大きな音が聞こえただけで興奮し傍の子を叩き、何度注意しても収まりません。言葉は良好です。自分の事を言われていると思うと意味のないお喋りで遮ります。魚や爬虫類が好きで触り、恐竜図鑑に熱中しています。アスペルガー症候群も疑われます。

現病歴：1年前に妹が生まれてから他児に手が出るようになった。

既往歴：出産歴に問題無く、夜泣きは無かった、偏食も無い。

診断：広汎性発達障害の診断基準を満たさなかったため、健常範囲の個性の強過ぎる子と診断した。

母への説明と心理療法：この子は我が非常に強い子で、世界は自分を中心に廻っている位に思っていますので、自分の思いのままに振る舞い、落ち着きなく映ります。物が倒れた

りしたら「私もやる」と言って突進して行くのは、他人に出し抜かれたという思いが強いからです。泣いてる子を叩きに行くのは、大人が泣く子に言う「泣かない、泣かない」をしっかり覚えていて、気真面目な性格のためセイラームーンの“月に代わってお仕置きよ”つまり“天に代わって成敗してくれる”という正義感が強いからです。下の子が生まれて乱暴に成ったのは、お姉ちゃんなんだからという意識の一方で、まだ私も赤ちゃんなのという意識が混在していて、ある時はお姉ちゃん、ある時は赤ちゃん、に成ってしまうため、行動が豹変したように映るのです。「ママ、ハッピーかい？ アンگریーかい？」発言は母親の気持ちを読み切れないため、母の気持ちを確認して母の気持ちに則した行動を取ろうとしているこの子の健気なお姉ちゃん意識の表現です。この子が、ある時は赤ちゃん、ある時はお姉ちゃん、に変化している事をまずは認める事が心理療法を基礎にしたこれからの育て方です。

お母さんが出来る心理療法をお教えます。第一は“凶星を言う”です。子どもが喜んでたら「嬉しいんだ」、怒ったら「怒ってるんだ」、黙って～を取っちゃったら「～欲しいんだ」、積み木を積んだら「積めたね」など、ずばり言い当てて下さい。これをすると見事に「お母さんは私の事良く分かってくれてるんだ、だから味方だ」という感情が醸し出され、そのためお母さんの言う事に“ダンボの耳”に成り、つまり聞く耳を持つことになって、お母さんの言葉が脳つまり心に響くように成ります。また、凶星を言われると「他の人にはそう見られているんだ」という思いが湧き上がって、自分を外側から見て意識化する事、つまり他者視点、が促されます。例えて言えば、テンション上がって頭の中が真っ白になっている時に、我と我が身に気付く、という事がし易く成ります。

二番目は“やっても無害”です。こういう私の強い子に「ダメ」「しない」「しちゃダメ」などといの一番に否定的に言ってしまうと、つまり頭ごなしに言うと、反発が凄くなって「お母さんなんか、私の気持ち分かってないじゃないの」という思いが湧き上がり不信感が募ります。不信感を持つて相手聞く耳が生じる筈はありません。だから突進して行くのです。この子にはお母さんを尊重する気持ちも有る一方、我が強い所も有りますので、お母さんに「ダメ」を言われるとお母さんに見捨てられたと思いついで自暴自棄になってしまう事になっているのでしよう。ですから、乱暴行為に及んだ時は先ず凶星を言って、「やるな」という否定ではなく「～しよう」とやって良い行動を提案します。叩きに行ったら「叩きたいんだね、優しくね」と言いながら相手の子をお母さんが撫で撫でて、やっても良い行動の手本を示すのです。玩具箱をひっくり返しに行ったら、先ずは「ひっくり返したいんだね」と凶星を言いながら、ぶちまけても安全な物、例えば、柔らかいボールとかをこの子に渡してぶちまかせます。ぶちまけても無害、を作ります。

三番目は“OKの声掛け”です。いつものように当たり前に出来た時にその都度「オッケー、それで良いよ、またやろうね」と声掛けして下さい。そうすると「お母さんが良いって言った。またやろう」という気持ちが募り、「だめ」という声掛けが減らなくても相対的に“認められた感、褒められた感”が増え「お母さんは味方だ、だからお母さんの言う事を聞こう」という思いが高じて聴く耳が育ちます。親にすれば聞き訳良くなったと映ります。

母は三つの方法を熱心に聞き取り「やってみます」と言った。

経過

3歳5ヵ月：プレ幼稚園で積み木が倒れた音がした時、走って行って積み木の箱をひっくり返した。母は止めないで「大きい音だったね」と言ったら、ニコニコしながら積み木を積んでは倒す遊びを始め、他の子を叩きに行かなかった。汽笛の音で興奮したが程度は軽くなった。隣りの子の大きな声を聞いて殴りに行ったとの事で、筆者は、叩きそうな時は透かさず好きな動物図鑑を見せて注意の矛先を変えられるように小さい図鑑を持ち歩いて下さい、図鑑が“安心グッズ”になれば乱暴しない筈です、と母に指導した。小さい子の手を取って「よしよし」と言ったのがあった。お絵描き帳に描いてる時、妹が邪魔しに行ったので、母が「貸したら」と言葉を掛けたら貸して上げられた。小さい頃から父も祖父母も過干渉なんです、と母は漏らした。

3週後：幼稚園で後ろの子が水をこぼして皆が「アーア」と言ったらその子の方に行こ

うとしたので、母が急いで虫の図鑑を見せたら見入ったが、やはりその子の方に行こうとするので「こっちこっち」としきりに誘ったら手を出さなかった。「表彰状ですね」と母を褒めた。積木が崩れた時は図鑑には見向きもしないで壊してしまったが、後で自分ブースに行って小さく積んでいた。「きっと反省していたんでしょう」と筆者の解釈を母に伝えた。終わりの合図がピアノでドーンのゲームの際はドーンと鳴った途端に隣りの子に掴みかかってしまった。次からはドーンではなくポンと優しい音にしてもらうように、と母に提案した。

3歳6ヵ月：泣いてる子にまだ掛かって行くが、目付きの鋭さが減って来た。妹が叩いて来てても我慢している事がある。「例えば」「～みたいにしたらどう?」「そんな事言ったら、こそばしちゃうぞ」などを言うとの事で、比喩と仮説が分かっているの、憂さ晴らしの行動化から言語化への発達を母に説明し、叩きそうになった時「叩くよ」と母が囁いて言葉で憂さを晴らせるように煽って下さい、と指導した。言葉で憂さを晴らせるようになるためにはメタ言語の発達が必要でその為には言葉遊びが重要であると説き、尻取りを勧め、「か」の付くもの、黒くてカアと鳴く鳥」などぼヒントをどんどん出して続くように演出して成功体験を作るように、と助言した。また、通常の4歳児が獲得する“二重性の理解”即ち本音と建前の区別を説明し、“顔で笑って心で泣いて”が達成されれば乱暴は納まるはず、と母に説明した。

3歳7ヵ月：児童館で大勢の子が騒いでいたが、我関せずと言った風で遊んでいた。妹と喧嘩して引っ掻いて血が出てしまっから手加減できるようになった。妹を叩きそうになったので、母が「ママを叩いて」と言ったら、矛先を母に向けられた。泣いてる妹に「さっちゃんうるさいよ」と言葉で諷められたが、プールで機嫌悪くて泣いてる子を叩いてしまった。母自身が「この子を叩く事があるんです、それを止めたんですが」と述懐するので、叩きそうな時に「叩いたら鬼に成る、母親で無くなる」など自己暗示の言葉を心の中で呟いて行動化を予防する“怒り情動遅延法”を説明し教示した。

3歳8ヵ月：遊んでいる最中に泣いてる子を叩いたので質すと、「やなの、私、真剣にやってたの、泣いたらうるさいでしょ、だから叩いた」と言葉で自分の気持ちを説明できた。玩具箱をひっくり返してお友達が茫然としていたら「私したんじゃないわよ」といった風に振る舞って惚けた。演技力は4歳児の知恵に達していると母に説明した。母が「そろそろ怒りたいけど」と声を掛けると「大丈夫、ママ、～だから」とはぐらかすとのことで、これは冗談が言えるようになる一歩手前の好ましい言葉使いである事を母に説明した。

3歳9ヵ月：母が母の友人に娘を紹介したら唾を吐いたので、母が「止めなさい、今日は、って言うんだよ」と言ったら「恥ずかしい」と言った。友達を突き飛ばした時、母が謝るように促したら「ごめんなさい」と言えたが不貞腐れて逃げて行った。滑り台で興奮して妹を突き飛ばした。ソファから一回転して跳んだ後、突然「殺せ」と言った。感情の起伏の激しさ、拗ねたりいじけたり取り繕ったり、突然思い出した事に乗ってしまっ行動化したり、がまだあるので他者視点の発達の未熟性を母に説明した。

3歳10ヵ月：泣いてる子を見たら「可哀想だね」と母が声掛けしていた所、泣いてる子を叩きに行かなくなった。妹(1歳5ヵ月)に物を取られても叩かずに「止めて」と言ったり、違う物を渡したりするようになった。順番を待てるようになった。

3歳11ヵ月：幼稚園の入園式では半分の子が泣いていたが、この子は落ち着いてちゃんと出来た。ピアノの音が大きく響いたが落ち着いていた。「周りの子が泣いていて嫌だった?」と母が訊くと「目をつぶって居たので大丈夫」と言った。「～ちゃんが～で泣いてた」と泣く子の様子を話す。妹が泣いてる時「鼻歌歌ってたら聞こえないから」と言った。妹を突き飛ばすのは無くなった。“顔で笑って心で泣いて”という二重性の発達が進み、自分を自分で説得するという自己制御の発達も急速に進んだ、と母に説明したところ母は大いに喜んだ。

4歳2ヵ月：夜「嫌だ」「ゆっちゃん(本児の呼称)、そんなことしてないよ」などと言いながら泣いてまた眠る事があった。「幼稚園嫌いになった。ママ居ないと寂しい、来て」と言ったので役員に成ってちょくちょく行くようにしたら寝言は無くなった。母が児の心に安心を作れるように行動した事を褒めた。先生の言う事を守れない子、泣いてる子が

いたら先生に言うようにと母が諭した所、給食を食べられないで泣いてる子を見て「～ちゃん泣いてるから、残して良い？」と先生に仲介したとの事、これはセイラームーン精神つまり“月に代わってお仕置きよ”という行動化から言語化への発達が進んだ証拠であると母に告げ、母子ともども大いに褒めた。

4歳5ヵ月：幼稚園からはとても大らかになったと言われた。先生の言った事を守れない子の手伝いをし、泣いてる子にはティッシュペーパーを渡す、など優しい行動が目立って来た。「まっ、良いか」を言って切り替えが早くなってしつこいのは減った。「(進級)テストに受からないかもしれないから(プールに)行かない」と言ったので、母が「続ければ受かるから」と言ったら「テストに受かるのが目的でないよ」と健気な発言をした。気紛れは未だあり、何も言わないですすーと行っちゃ事がある。しかし、乱暴は全く無い。自分の名を平仮名で書けるようになった。

母は「父も祖父母も過干渉なんです、と以前先生に言いましたが、今思うと私も前は過干渉だったんですね」としみじみと述懐した。

考察

本児の性格は以下のものであった。外向性は元気活発、積極的、衝動的で充分過ぎる程。協調性も心配りが有り友達も沢山いる一方我が強く自己中心的性もあったので両極端。勤勉性もきちんとする事がある一方、気紛れ、言う事を聞かない点もあったのでやはり両極端。情緒はいじけ易く、怒りっぽく興奮し易いので不安定であった。知性は充分。

母を介した心理療法によって本児の性格的問題点、つまり過剰な外交性、両極端な協調性と勤勉性、情緒不安定、が改善するとともに乱暴行為も消滅した。

母自身による心理療法によって改善した要因は、母が教員としての職業的立場から“好い事作り心理療法”の原理を良く理解して実践したから、である。

引用文献

- 1) 石川 丹：癩癩、衝動、攻撃など問題行動に対する精神療法. 日児誌 114:439-446, 2010
- 2) 石川 丹：攻撃行動の心理発達. 小児科臨床 61:52-58, 2008
- 3) 石川 丹：反抗期の心理発達. 小児科臨床 61:866-872, 2008